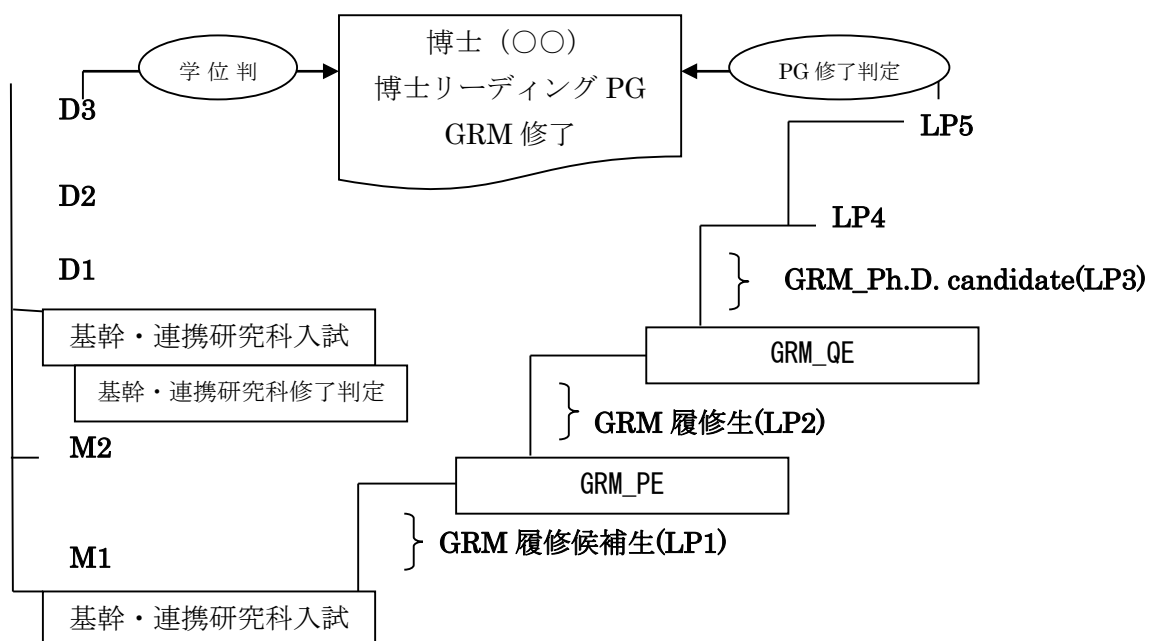


## II 「グローバル・リソース・マネジメント」プログラムについて

本プログラムは、良心教育を基礎に据え、本学の教育のグローバル化の成果を活かして、諸研究科を横断する新たな大学院教育を創設するという趣旨から構想された。本プログラムが養成しようとするグローバル・リーダーは、いわゆる「エリート型」リーダーではなく、新興国や最困難国・地域で現地の人々と同じ目線で諸問題の解決にあたることのできる文理融合型グローバル・リーダーであり、創立者新島襄の精神が生き続けている本学独自のプログラムである。

このような人材を育成すべく、基幹研究科・専攻又は連携研究科・専攻（表1）に入学した学生を対象とし、博士前期・後期課程を一貫する5年間の学位プログラムによる大学院教育を提供する。本プログラムの履修を希望する学生は、所属する研究科の定める規程等に従って博士前期課程の教育課程を履修するとともに、本プログラムが開設する独自の科目を履修する。博士前期課程1年次終了時点で、本プログラム履修生としての認定を審査する Preliminary Examination (PE) を受験し、当該試験に合格した者を「GRM 履修生」として迎え入れる。GRM 履修生に対しては、博士前期課程2年次の所属研究科での博士前期（修士）課程最終試験（試問会等）と同じ時期に、本プログラムの継続履修の可否について、Qualifying Examination (QE) を実施し審査する。



PEでは志望理由書、博士前期課程における授業科目の履修状況、筆記試験（論述）、口頭試問等を総合的に判断し、可否を決定する。PEの実施により、学修した知識を整理して理解する基礎学力および、本プログラムへの志向性を確認する。

QEでは履修継続理由書または志望理由書及び研究計画書（英語/日本語）を基とする口頭試問を実施する。QEにより基礎学力とともに計画立案能力、計画に基づいて研究・実務を遂行する能力を確認する。QEを通過した履修生は、「GRM Ph.D. candidate」として博士後期課程に進学<sup>※</sup>し、所属する研究科の定める規程等に従って博士後期課程の教育課程を履修するとともに、継続して本プログラムを履修する。なお、QEの実施においてPE未受験者を若干名受け

入れることがある。（詳しくは IVまたはVI Qualifying Examination (QE)の章を参照のこと。）

本プログラムでは、所属の研究科の所定単位を修得した上で、別途、本プログラムの修了に必要な単位（20単位）を履修し、一定の業績を挙げた履修生に対し、プログラム修了認定審査を行う。本プログラムの修了認定審査に合格し、所属研究科における博士学位論文審査に合格した者には、所属研究科の教育課程及び博士課程教育リーディングプログラム（グローバル・リソース・マネジメント）を修了したことを添えた、「博士（所属研究科ごとに定める専門分野）」の学位を授与する。

※別途、大学院入学試験（博士課程（後期課程））（表2）を受験し合格する必要がある。

表1 グローバル・リソース・マネジメント参画研究科・専攻（博士前期課程）

基幹研究科・専攻	グローバル・スタディーズ研究科グローバル・スタディーズ専攻、 理工学研究科情報工学専攻、理工学研究科電気電子工学専攻、 理工学研究科機械工学専攻、理工学研究科応用化学専攻、 理工学研究科数理環境科学専攻
連携研究科・専攻	神学研究科神学専攻、文学研究科哲学専攻、 社会学研究科社会福祉学専攻、社会学研究科産業関係学専攻、 法学研究科公法学専攻、経済学研究科理論経済学専攻、 経済学研究科応用経済学専攻、商学研究科商学専攻、 総合政策科学研究科総合政策科学専攻

※2011年度以前入学者は、理工学研究科を工学研究科（応用化学専攻は工業化学専攻）と読み替える。

表2 グローバル・リソース・マネジメント参画研究科・専攻（博士後期課程）

基幹研究科・専攻	グローバル・スタディーズ研究科グローバル・スタディーズ専攻、 理工学研究科情報工学専攻、理工学研究科電気電子工学専攻、 理工学研究科機械工学専攻、理工学研究科応用化学専攻、 理工学研究科数理環境科学専攻
連携研究科・専攻	神学研究科神学専攻、文学研究科哲学専攻、 社会学研究科社会福祉学専攻、社会学研究科産業関係学専攻、 法学研究科公法学専攻、経済学研究科経済政策専攻、 商学研究科商学専攻、総合政策科学研究科総合政策科学専攻

## 【Q&A】

Q：基幹研究科博士前期課程・専攻又は連携研究科博士前期課程・専攻以外の研究科・専攻に所属している場合も、本プログラムを履修できるか？

A：原則、履修できません。ただし、博士後期課程から基幹研究科・専攻又は連携研究科・専攻へ進学することを条件に、事前審査を経て QE に合格した場合は履修することが可能です。

Q：社会人や留学生でも本プログラムを履修できるか？

A：履修できます。ただし、収入のある社会人、日本学術振興会特別研究員や国費留学生、外国政府等から奨学金等を得ている場合は、同志社大学博士課程教育リーディングプログラム履修生特別奨励金は支給されません。なお、条件を満たした場合は、同志社大学大学院博士後期課程若手研究者育成奨学金を受給することは可能です。

Q：PE の博士前期課程における授業科目の履修状況では、どのような科目を評価されるのか。

A：所属研究科及び本プログラムが独自に設ける科目の履修（登録）状況の評価します。特に、本プログラムが独自に設ける科目の履修（登録）状況を重視します。

Q：PE、QE は、年に何回実施されるのか？ また不合格になった場合、再度、試験を受けることは可能か。

A：年2回、春学期と秋学期にそれぞれ1回、年2回実施する予定です。

PE は、第2セメスターもしくは第3セメスターに在学する者を対象に実施しますので、博士前期課程在学中に2回まで受けることが可能です。

QE は、いずれかの1回しか受けることができません。

Q：同志社大学博士課程教育リーディングプログラム履修生特別奨励金制度は、2019年3月までとのことだが、以後はまったく支給はされないのか。

A：現時点で、2019年4月以後のことは未定です。